

東京発

千夜一夜

森瑤子

下巻

Mori Yoko



Tokyo
Thousand
and
One Nights



新潮文庫

とうきようはつ せん や いち や
東京発 千夜一夜 (下)

新潮文庫

も-14-6



平成七年三月一日発行

著者

森 もり

瑤 よう

子 こ

発行者

佐藤

亮

一

発行所

株式会社

新潮

社

郵便番号

一六二

東京都新宿区矢来町七一

電話 営業部(〇三)三二六六―五一
編集部(〇三)三二六六―五四〇

振替 東京四一八〇八番

価格はカバーに表示してあります。

乱丁・落丁本は、ご面倒ですが小社読者係宛にご送付ください。送料小社負担にてお取替えいたします。

印刷・凸版印刷株式会社 製本・加藤製本株式会社

© Office Mori Yoko 1992 Printed in Japan

ISBN4-10-109416-0 C0193

新 潮 文 庫

東京発 千夜一夜

下 卷

森 瑤 子 著



新 潮 社 版

5430

東京発 千夜一夜（下巻） 目次

第一百一話 拾得物 11

第一百二話 現実の苦さ 15

第一百三話 正直者 19

第一百四話 息子の嫁さんⅢ 23

第一百五話 世にも甘美な遊び 27

第一百六話 男たち 31

第一百七話 卵 35

第一百八話 優しい狼 39

第一百九話 変わらぬ愛 43

第一百十話 納骨堂の怪 47

第一百十一話 裏窓 51

第一百十二話 シナリオ 55

第一百十三話 西南西の風快晴 59

第一百十四話 死が二人を分かつまで 63

第一百十五話 恋の真実 67

第一百十六話 亭主は遠くに 71

第一百十七話 私立探偵竜門・

失われた手帳の巻 75

第一百十八話 ある浮浪人の告白 79

第一百十九話 嫁と姑と 83

第一百二十話 マネキン人形 87

第一百二十一話 百足 91

第一百二十二話 地獄談議 95

第一百二十三話 私立探偵竜門・

消えたミステリー 99

第一百二十四話 セーヌ川哀歌 103

第一百二十五話 霊界の夫○未亡人 107

第一百二十六話 あの世を見て来た男 111

第一百二十七話 秘書のかがみ 115

第一百二十八話 夢分析 119

第二百二十九話 私立探偵竜門・

熱帯夜の殺意 123

第三百十話 選択の誤り 127

第三百十一話 臨終 131

第三百十二話 猫に小判 135

第三百十三話 いわゆる知識というものは 139

第三百十四話 父の沈黙 143

第三百十五話 私立探偵竜門・

捨てたつもりが捨てられて…… 147

第三百十六話 幻滅 151

第三百十七話 母の愛 155

第三百十八話 北風と太陽 159

第三百十九話 吸い殻 163

第三百四十話 アルフレッド・

ヒッチコック様 167

第四百十一話 私立探偵竜門・

消えた依頼人 171

第四百十二話 航空券 175

第四百十三話 迷子 179

第四百十四話 牝猫 183

第四百十五話 スロット・マシン 187

第四百十六話 七人の敵ありき 191

第四百十七話 私立探偵竜門・

忘れえぬ目の女 195

第四百十八話 ある微笑 199

第四百十九話 美容整形 203

第四百十話 ある結婚 207

第四百十一話 忠告 211

第四百十二話 男の料理に物申す 216

第四百十三話 私立探偵竜門・時効 220

第百五十四話 手 224

第百五十五話 ラブ・レター 228

第百五十六話 クジャク 232

第百五十七話 寡黙 236

第百五十八話 カラオケ・バッシング 240

第百五十九話 私立探偵竜門・

世界の危機に挑戦するの巻 244

第百六十話 九月の長い夜 248

第百六十一話 レターフレンド 252

第百六十二話 一夜の値段 256

第百六十三話 星の降る夜 260

第百六十四話 私立探偵竜門・

ニューヨークの孤独 264

第百六十五話 別れの朝 268

第百六十六話 風 272

第百六十七話 現実の耐えられない軽さ 276

第百六十八話 フラストレーション 280

第百六十九話 私立探偵竜門・

二度消えたホテル 284

第百七十話 アリバイ 288

第百七十一話 雨 292

第百七十二話 魔法の効力 296

第百七十三話 男の実 300

第百七十四話 同じ話 304

第百七十五話 私立探偵竜門・

ぬぐえぬ不信感 308

第百七十六話 別れたい 別れない 312

第百七十七話 今、何かが起こっている 316

第百七十八話 醜いアヒルの子 320

第百七十九話 女実業家 324

第百八十話 人生のさとり 329

第百八十一話 私立探偵竜門・

犯人は誰だ？ 333

第百八十二話 妻はそれが理解できない 337

第百八十三話 余命 341

第百八十四話 真実の恋 345

第百八十五話 虫の居どころ 349

第百八十六話 私立探偵竜門・

真夜中の殺人 353

第百八十七話 よくある話 357

第百八十八話 消された記憶 361

第百八十九話 妻に恋した夫の話 365

第百九十話 煮ても焼いても食えない話 369

第百九十一話 日本娘 373

第百九十二話 私立探偵竜門・電話の依頼人 377

第百九十三話 ペンチ 381

第百九十四話 エイリアン 385

第百九十五話 宝くじ物語 389

第百九十六話 人間模様 393

第百九十七話 お別れパーティー 397

第百九十八話 私立探偵竜門・抑止力 401

第百九十九話 喧嘩がしたい 405

第二百話 絵 409

抜けない棘——亀海昌次 413

東京発 千夜一夜 下卷

第百一話

拾得物



「それ、どこで忘れものをしたんですか」
と、拾得物の係官が事務的に質問した。

「下りの新幹線の中です。日時は三日前の確か八時十五分発の博多行きでした。グリーン
禁煙車です」
男はひどく青白い顔色だったが、緊張しているというよりも、元々そういう肌の色なの
だろう。言葉遣いは正しく、ていねいだった。

「で、失くしたものは？」

男の答えを紙切れに書きこみながら、係官がまた訊問した。

「ジュラルミン製の小さなトランクです」

「中身は？」

「中身は——」と、男は一瞬言葉を切った。

「サンプルのようなものです」

やがて係官は奥から小型の、銀色に光るトランクを持って来て、男の前に置いた。

「ありがとうございます。では」

と、男が取っ手に手をかけ行きかけた。

「まだですよ。気の早い人だ」

係官が引き止めた。「中身を確かめる必要がありますよ」

「ですから、サンプルと言いましたが」

「サンプルだったって色々あるでしょうが。宝石のサンプルなのか、薬品なのか——いずれにしろ高価なものが入っているようだから、念には念を入れないと」

「確かめるということは、つまりこの場でフタを開くということでしょうか？」

男は緊張して訊いた。

「もちろんです。他に確かめる方法がありますかね」

「ということですと、少し無理があります」

「無理とは？」

「私は鍵を持って来ていませんので」

「それでは鍵を持って、改めて出直してもらうしかありませんよ」

「しかし、急ぐのです。二時間後の飛行機に乗らなければなりません。鍵を取りに行く暇はありません」男は困惑してそう言った。

「お気の毒ですが、規則は規則です」

係官はにべもなくそう言うと、銀色のトランクを持って奥へ引っこんでしまった。

男は近くの公衆電話を取り上げた。

「こちらAX一〇七号。非常にまずい事態だ。中身を点検しないと返してくれない。しかしフタを開けるわけにはいかない。地球全体の生物を一分以内に死滅させるジェット細菌で、私までがやられてしまうからだ。……そうだ……そのつもりで持っては来たのだが、調査の結果、地球人は愚かだが邪悪な人種ではないことが判明した。邪悪な人間がいるとしてもそれは人口の三パーセントに過ぎない。ここでの文明もまだ低く、今後数千年は、我々に攻撃をしてくることもないだろう。従って私はこの細菌を使用しないことにきめ、母船に持ち帰るつもりだった。残念だがあれを取り戻す手段はない。理由を説明すれば直ちに私は取り調べられ、正体を知られてしまう。非常に危険ではあるが、あれは置いて行くしかない。今のところ勝手に中身を調べるとは思わないが、永久にあのまま保管されると思えない。これより、私は基地に向かい、母船に乗り込む予定だ。通信終わり」

その奇妙な男が訪ねて来てから三カ月後の今でも、ジュラルミン製の小さなトランクは拾得物として、保管されているが……。

第百二話

現実の苦さ

